高専・技科大連携で モノづくりの未来を拓く

15歳の春から学ぶ現場スピリットを力に

長岡技術科学大学と豊橋技術科学大学は全国の高等専門学校と連携し、製造現場のリーダー級の人材を産業界に送り込むとともに、産学連携などを通じ地域産業の活性化してきた。長岡技科大の東信彦学長と、豊橋技科大の大西隆学長、国立高等専門学校機構の谷口功理事長に、日刊工業新聞社社長の井水治博が、日本のモノづくりを支えてきた高専の歴史や、連携の成果、今後の方向性について聞いた。

主導権握る人材を育成　徹底したキャリア教育

谷口氏

井水　長岡技術科学大学と豊橋技術科学大学は、ともに1976年（昭和51年）に設置され、16年10月に40周年を迎えました。おめでとうございます。高等専門学校は62年に設置されています。まず歴史的な背景を教えていただけませんか。

谷口　日本が工業大国、産業大国を目指す中で、高度成長期の60～70年代は大量の中堅技術者が必要になるということで、高専が開設されたことが基本となっています。

また高専は全国の地域の一番大きな町では1市町に1校、2番目、3番目の町にも開発されました。大きな町は放っておいても発展します。2番目、3番目の町は方々に元気な企業を育てることが可能になります。

大西　豊橋技科大は愛知県にあるので、愛知県内から豊橋技科大へ入学する学生は1割ほどで、卒業生の2割は地元に就職しています。ですから「地元型」技術者を育成する高等教育機関として、地域に貢献していること、産業が強く億良な企業が多いことが、実際には卒業生の地元に定地した企業に入社したら、10年間に新しい名古屋、新しいトヨタなどの会社もでてくるかもしれないよ、という気持って乗り出さないといけません。

東　その通りです。我々はそれをやろうとしているわけです。

大西　高専・技科大の教育は、ある種の英才教育ですよね。ピアニストやバイオリニストなどと同じ。4人目のノーベル賞受賞者、ドーナッツ（LED）における赤崎先生、天野先生、そして、4人目といわれている青色LEDのノーベル賞受賞者、中村先生。それに中村先生の弟子で、青色発光ダイオードの発明者、ノーベル賞の受賞者はみな、高専・技科大出身です。

井水　今までの紹介人まではという規定があるから、大学と同じ紹介料を出しますよ、という感覚でいたのですよ。

谷口　「高専を卒業したら、大学と同じ紹介料を出しますよ」という感覚でいたのですよ。

井水　そうすると地域産業に貢献していること、産業が強く億良な企業域も元気になります。いえると思いますが、ね。今、地元産生は本当に必要だと思います。技科大や高専で産学連携の拠点をつくり、人材を育成し、地方に元気な企業を育てるルな中小企業があり、ることが可能になります。

谷口　地域に「名古屋」と「トヨタ自動車」に当たるものがあるのなら、ないのなら、いんでやらないんでいいんですよ。そのような気持ちでやらないのではないでしょうか。

谷口　「高専を卒業したら、大学と同じ紹介料を出しますよ」という感覚でいたのですよ。そのような会社もでてくるかもしれないよ、という気持ちで乗り出さないといけません。

東　その通りです。我々はそれをやろうとしているわけです。

大西　高専・技科大の教育は、ある種の英才教育ですよね。ピアニストやバイオリニストなどと同じ。4人目のノーベル賞受賞者、ドーナッツ（LED）における赤崎先生、天野先生、そして、4人目といわれている青色LEDのノーベル賞受賞者、中村先生。それに中村先生の弟子で、青色発光ダイオードの発明者、ノーベル賞の受賞者はみな、高専・技科大出身です。

井水　今までの紹介人まではという規定があるから、大学と同じ紹介料を出しますよ、という感覚でいたのですよ。

谷口　「高専を卒業したら、大学と同じ紹介料を出しますよ」という感覚でいたのですよ。

井水　そうすると地域産業に貢献していること、産業が強く億良な企業域も元気になります。いえると思いますが、ね。今、地元産生は本当に必要だと思います。技科大や高専で産学連携の拠点をつくり、人材を育成し、地方に元気な企業を育てることが可能になります。

大西　豊橋技科大は愛知県にあるので、愛知県内から豊橋技科大へ入学する学生は1割ほどで、卒業生の2割は地元に就職しています。ですから「地元型」技術者を育成する高等教育機関として、地域に貢献していること、産業が強く億良な企業域も元気になります。今、地元産生は本当に必要だと思います。技科大や高専で産学連携の拠点をつくり、人材を育成し、地方に元気な企業を育て